

第 2 2 回 日・E S A 行政官会議の開催結果について

平成 9 年 7 月 9 日
調 査 国 際 室

1. 日程

平成 9 年 7 月 3 日（木）～ 4 日（金）

2. 場所

東京（科学技術庁ほか）

3. 出席者

（日本側）科学技術庁：大熊審議官、野家調査国際室長 ほか

運輸省、郵政省、文部省宇宙科学研究所、宇宙開発事業団等から参加

（E S A 側）ドーダン副長官（Special Advisor） ほか 1 4 名

4. 会合の結果概要

○今後の日欧宇宙協力の具体的な内容を検討することを目的に、第 2 0 回会合にて設置されたアドホック会合からの報告がなされた。

○日本側より、地球観測衛星「みどり」の運用停止の状況について説明を行い、原因究明に努めている旨の報告を行った。

○全体会合において、日本及び E S A の最近の宇宙開発の動向について意見交換、情報交換を行うとともに、一般、地球観測、宇宙通信、運用、宇宙実験及び輸送系の 6 つの分科会を開催し、今後の協力について、意見交換及び情報交換を行った。

○次回会合は来年、欧州にて開催することとなった。

5. 各分科会の概要は以下のとおり。

(1) 一般分科会

- ・ N A S D A 及び E S A の広報活動に関する意見交換を行った。
- ・ 日・E S A 間における人材交流のために、E S A から1名がN A S D A へ派遣されており、本人から研修の現状について報告があった。また、昨年度までN A S D A からE S A に派遣されていた4名の職員の活動結果について報告が行われた。
- ・ N A S D A からE S A へ2名の職員の派遣を希望しており、調整状況について確認を行った。

(2) 地球観測分科会

- ・ N A S D A 及びE S A の地球観測に係る活動の現状報告に加え、A D E O S 運用停止の状況についてN A S D A から報告を行い、今後の協力について意見交換を行った。
- ・ 地球観測に係る将来ミッション及び災害監視・管理の分野での協力の可能性について、意見交換を行った。

(3) 宇宙通信分科会

- ・ 日欧共同高速衛星通信実験の概要、目的、参加機関、回線構成等をまとめたプロジェクトプランに合意した。
- ・ 超高速通信技術衛星についての双方の検討状況の報告及び意見交換を行い、次回の宇宙通信専門家会合までにコモン・コンセプトを確立させることで合意した。

(4) 運用分科会

- ・ 双方の衛星運用管制及び地上局ネットワークの運用状況と将来計画に関する情報交換を行った。
- ・ 追跡管制における緊急相互支援に関する検討を行った。

(5) 宇宙実験分科会

- ・ 双方の宇宙ステーション用ハードウェアの交換に関する調整を行った。
- ・ 宇宙ステーション及びスペースシャトル利用に関し情報交換を行った。
- ・ 双方の施設を利用した協力の可能性につき、意見交換を実施した。

(6) 宇宙輸送分科会

- ・ H Y F L E X データの共同解析協力に係る調整を行った。
- ・ H O P E - X の実験計測に関する協力の調整を実施した。
- ・ 将来型輸送系を含む双方の宇宙輸送システムに関する状況報告及び意見交換を行った。

(参考1) 日・ESA行政官会議について

日・ESA行政官会議は、1972年の日本とESRO（欧州宇宙研究機構：ESAの前身）との間の協力に関する交換公文に基づき、毎年1回開催され、今回で22回目。

科学技術庁研究開発局長、ESA長官が交代で議長を務めており、地球観測、通信、宇宙ステーション、輸送系等の分野において情報交換、意見交換が行われている。

(参考2) 欧州宇宙機関（ESA：European Space Agency）について

欧州諸国が協力して宇宙開発を実施する機関として、1975年5月に欧州11ヶ国の設立条約に基づいて設立された。

97年6月現在の加盟国は、

オーストリア、ベルギー、デンマーク、ドイツ、フランス、アイルランド、イタリア、オランダ、ノルウェー、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス、フィンランド

の14ヶ国。この他、カナダが特定プロジェクトで参加している。

(参考3) アドホックワーキンググループについて

1995年6月に東京にて開催された第20回日・ESA行政官会議において、従来の日・ESAの情報交換を主体とした協力を活性化させ、新たな協力についての意見交換と提言を行うことを目的として設置された。宇宙ステーション、宇宙輸送、衛星応用技術、地球観測、月・惑星探査及びアルテミスの6つの分科会から構成され、個別に協力内容の検討を行った。